

冬薔薇の力強さに心惹かれ



和の美 時の想い

by wamiles

きょうは12月23日。平成に入り29回目の天皇誕生日である。政府は先週13日、天皇陛下の譲位日を「2019(平成31)年4月30日」と定める政令を公布。譲位翌日の5月1日に皇太子さまが新天皇に即位される。平成の天皇誕生日は来年の30回目まで。改元後の新たな天皇誕生日は皇太子さまの誕生日、2月23日となる。

12月23日が祝日で翌日はクリスマスイブというおめでたい日並びは、歳末商戦に大きな影響を与えてきた。庶民にとっても年の瀬に一息入れられる、ありがたい祝日で、すっかり定着している。明治や昭和の天皇誕生日と同じように、12月23日も名称を変えて祝日になるのか、それとも平日となるのか。昭和天皇の誕生日、4月29日は平成元(1989)年に「みどりの日」となり、祝日法改正により平成19(2007)年に「昭和の日」へとかわった。12月23日がどうなるのか、カレンダー業界ならずとも、気になるところだ。

大出一博(おおいで・かずひろ)
ファッショントレーナー

1967年SUNデザイン研究所を設立。国内外の有名デザイナーのショーを始め、新聞社、テレビ局、地方自治体、鎌倉が関係するファッションイベントや日本の伝統美を伝承するための着物ショーのプロデュースを手掛ける。また数々のチャリティーイベントをプロデュースし、ファッション界へ浸透させる。心を学び、五感を育てることを目的とした『葉山文化塾』を賛同者とともに96年に開塾。

仕事のかたわら撮り続けた写真は写真集として多数出版されている。

さて、今回の写真はバラである。師走の花といえばポインセチアやシクラメンなどを思い浮かべる。バラは季節外れの感もあるが、冬でも花をつける。わが家の庭では今、ピンクと白いバラが花を咲かせている。

「冬薔薇」と書いて「ふゆそうび」と読むことを知ったのは、谷村新司が歌う「群青」でだ。初めて聞いた時は「冬装備」の漢字をイメージしていたが、後にテレビの歌謡番組で歌詞のテロップに「冬薔薇」と書かれているのを見て、冬のバラだと知り、歌の意味も理解できた。「冬装備」じゃ変だよな、と自分の無知を棚に上げて思ったものだ。さだまさしにも「冬薔薇」をタイトルにした歌がある。冬薔薇を「ふゆばら」より「ふゆそうび」と読んだほうが、なんとなく重みのようなを感じるから不思議だ。

写真のバラは満開ではないが見事な咲きっぷりだ。撮影場所は横浜市の「港の見える丘公園」だった。

港の見える丘公園に行ったのは大学生のころ。ン十年もご無沙汰している。園内には大佛次郎記念館やバラ園「イングリッシュローズの庭」などがある。

さて、バラの咲き具合はどうか。先週末、公園の事務所に電話すると、「秋バラのシーズンはすでに終わりました。今はボツリ、ボツリと咲いている程度です。バラをぐらんになるなら、春になってからの方がいいですよ。ぜひ、そのころおいでください。お待ちしています」と丁寧に応対していただいた。大出さんが撮影した今月初めのころは、この写真のようにモデルさんと絵になるぐらい咲いていたのだろう。

ボツリ、ボツリと咲く冬のバラも趣があっていい。「冬薔薇」は冬の季語。文字面だけだと冬の侘しさしか伝わってこないが、庭の冬薔薇を見ていると、寒風に耐えながら健気に花を咲かせる姿から力強さを感じ、心惹かれる。

写 真：大出一博
文 文：遠藤一夫
モ デ ル：中川愛理沙
ヘ ア：air
メ イ ク：ワミレスコスメティックス
ス タ イ リ 料：ユキコ・グレン
撮 影 場 所：横浜市「港の見える丘公園」
着 物：小千谷紬（鈴乃屋）
帯 帯：染紬名古屋帯（鈴乃屋）